
フローズンシトラス

音無 無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フローズンシトラス

【EZコード】

N7124U

【作者名】

音無 無音

【あらすじ】

【シーブリーズシリーズ第三弾】彼女と出会って数日。彼女はシーブリーズを勧めてくれた。だけど

彼女と出会つて数日。

彼女はシーブリーズを勧めてくれた。

だけど

結構匂いの種類があつて店頭で悩んだ結果。

「じゃあ、私も行くよ」

といつ結末になつた。

「道野瀬くんは、甘酸っぱい匂い似合ひそーだよねッ！」
と爽やかな笑顔が俺に向けられる。

こんな笑顔を独り占めに出来る奴、羨ましいなあ。

・・・・・というのはアレだ。

噂で聞いただけなんだが、彼女に彼氏ができるらしい。
クソ、羨ましいぜ・・・・・。

「ねえ、聞いてるー？」

「えつ！？す、スマセン・・・・」

「ふふ。じゃーあ、これだねッ！」

と、差し出されたのは黄色い爽やかなパッケージのシーブリーズ。
イメージ的にはレモンといったとか。

「えへへっ、えーっとね、”フローズンシトラス”って言つんだよ

？”

「へえ」

よく見れば渡されたのはテスターだった。

強制は、しないらしい。

嗅いで気に入つたら買つて、的なのだろ、きっと。

・・・・・匂いは。

俺の想像通り、レモンだった。

「どう？」

顔をのぞき込むように聞いてくる。

その仕草がまた可愛い。

「えと、なんか、爽やかっすね」

敬語やめてよお！ね？」

卷之三

可愛い！ああーあ、彼氏ボコりたいぜ・・・・・。

俺はその後、それを購入することにした。

レジは並んでいた。間違ふと街を高くと歩かないにどはアハハ。

が、太陽がカソッカンに照つてるので

へてすぐ有る休憩所で一斗茶を飲み、待機

「お待たせー」

といふに後ろから声がかかる。

シナリオ

ここはレディファースト。彼女に選択権を譲った……のだが。

「私どつちも食べたいなあ、ねえ、分けあいつこじょ？」

版見立

ここで思い切つて俺は聞いてみた。

「あの」「なに? かしこまつちがひ

「付き合ってる人、居るんですか？」

「居るよ。」

きょとんとどぽけ氣味。

俺は地獄の底に落とされた氣分。

「元気だ

と俺を指す。

「え？」

「？」

「えええ！」

「それじゃなければ、買い物についていつたり、
アイスわけっこしないもん」

語尾がまた可愛い。

・・・・・じゃなくつて！な、なんで俺？

「そ、それはあ

もじもじとアイスを口に令んで」まかす。

「それは・・・・？」

「秘密つー」

んべつ、と下を出す。

「あーあ、暑いなつーもお、それ貸してー。」

と俺のシーブリーズ（無論フローズンシトラス）を奪う。

俺の初恋は、フローズンシトラスの甘酸っぱい香りと共に
成功を遂げた。

(後書き)

夏にはシーブリーズが必需品となりますよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7124u/>

フローズンシトラス

2011年10月3日11時17分発行